

## 妙心寺の禪、西部に来たる

### 承周老師のアメリカでの 25 年間（1962 年～1987 年）

内表紙裏肖像 注

古川大航妙心寺管長、1962 年に承周老師をアメリカに派遣した。

## 目次

私たちについて（承周老師による）	1
日本から	13
・・アメリカへ	19
3つの主なセンター	
シマロン禪センター	35
マウント・ボールディ禪センター	47
ジェメス・ボーディ・マンダラ	61
経典の講習会	71
旅行	75
キリスト教徒との対話	81
臨濟寺センター一覧	85
僧院の地	89

表紙 シマロン禅センターの板、佐々木承周老師の書

訳；

生死事大（生と死は重大な問題である。）

光陰可惜（時を無駄にしてはならない。）

無常迅速（無常は迅速だ。）

時不待人（時は何者も待つてはくれない。）

著作権の表示 1987年 宗教法人臨濟寺宗務局長

左写真 注

佐々木承周老師

## 初めに

このアルバムは佐々木承周老師が合衆国に来てから 25 周年を記念し祝するものである。彼はこの国に真の禅をうちたてることを決意しアメリカにやってきた。彼のこの事業に対する献身的姿勢は衰えることなく、彼の働きの成果は明白である。何千もの人々が彼の指導と彼が用意した訓練の恩恵をうけた。彼の強烈で深い指導によって、多くの道場の修行者がより深く修行生活できる場所に移ってきた。ある者は正式な得度をうけ、僧侶となった。ある者は諸法実相の觀を得た。これは自然宇宙に対する理解のことであり、（従来の考えから）劇的に変化するものであった。今、80 歳になって、老師は歩みつづけ、かれのエネルギーは過ぎゆく歳によっても全く衰えることがない。

この記念アルバムは老師のこの地での時間の短い年譜となっている。（だから）このアルバムは彼の色々なやり方の教えを示すものではない。彼の話の短い抜粋は、斜体字（訳注：老師の提唱は、紫字で表記している。）で記載し、彼の語り口の醍醐味を感じさせる口頭のテキストで掲載してある。（が、そうではなく）このアルバムは単純に、彼と世の中に対して特筆すべき瞬間を伝えんとするものである。

このアルバム の出版は、以下の方々の努力なしでは不可能だった。即ち、老師の夫人の佐々木春代氏（訳注：信州大学元助教授）、コーダー・ロン・オルセン氏、ジェンタイ・サンディ・スチュワート氏、マルシア・ラディン氏そしてマウント・ボールディ禅センターのスタッフである。特にジュディ・ゴベット氏には特別の感謝をしたい。彼女の植字と良き希望はまったく天賦のものだ。アンドリュー・ギリス氏はシマロン、マウント・ボールディ、ジェメス・スプリングス禅センターを撮影し、また写真をつくる全ての面で助力をしてくれた。

ヨシン・デイヴィッド・ラディン 編集者

## 1 ページ

### 私たちについて

妙心寺は日本において臨済禅の一流の流派として認知されている。他に 14 の臨済宗の宗派があり(1)、それぞれに本山と独立した機構があるが、三つの点において妙心寺は突出している。

まず第一に、妙心寺と大徳寺以外の全ての宗派の法系は断絶している。この事実だけでも、法の継承の問題がいかに困難で深刻であるかわかる。

妙心寺は無相大師(2)によって建立された。無相大師は大應国師と大燈国師の法系に連なる。妙心寺はこの法系を絶やすことなく今日に至っている。この状況は、他の宗派と鮮やかな対照をなしている。

参考までに、大徳寺は無相大師の師匠である大燈国師によって建立された。

### 1 ページ左写真

## 開山堂 妙心寺創建無相大師の墓所

### 1 ページ右写真

古川大航管長、花園法皇が無相大師のもとで修業した場所を記念する玉鳳院の前で。

### 3 ページ

2つめの点は、1点目からくるものである。法系が途絶えた宗派は、後継のために妙心寺の法系から人材をとってくる必要にせまられた。つまり、全ての臨濟宗の宗派の教えは、本質的に妙心寺の精神なのである。

このような発展の結果、妙心寺の末寺の数は、他の 13 の宗派の合計の 4 倍にのぼる。これが、妙心寺の傑出している第 3 点目である。

このような偉大な影響力がありながら、妙心寺はほとんど布教活動をしていなかった。戦前、僧侶が満州、中国、台湾、朝鮮に派遣されたが、彼らの活動は日本移民に限られていた。これらの国において、日本人の共同体をこえて布教活動が試みられることはなかった。

19 世紀のおわり、ある世界宗教会議が合衆国で開催された。出席した日本の仏教の僧侶の中に、若き臨濟宗の老師、釈宗演(3)がいた。彼は秘書の鈴木博士と一緒にいた。彼の通訳によって、初めてアメリカに臨濟禅の思想が紹介されたのである。

### 3 ページ左 上 写真 注

妙心寺 総受付

### 3 ページ左 下 写真 注

妙心寺 仏殿

### 3 ページ右 肖像 注

無相大師、妙心寺創建者。作者不明。(訳注：天龍寺の夢窓国師を誤掲載)

### 4 ページ

その後、半世紀以上後の1960年に、妙心寺管長である古川大航老師がアメリカに禅の普遍的本質を紹介しようと明確に意図して合衆国を訪れた。彼は合衆国に数か月滞在した。彼が本来の仕事を離れても行ったことだから、この布教計画の重要性がよくわかる。彼の一行には、京都・龍安寺住職の松倉紹英和尚、静岡・安南寺の住職で管長秘書の清陀眞一和尚がいた。

### 4 ページ写真 注

左から右へ。古川大航管長、龍安寺住職松倉紹英、安南寺住職清陀眞一、1962年合衆国への出発前に、管長の居室にて

### 5 ページ

管長の出発の後、眞一和尚はロサンゼルスでの活動を続けた。眞一和尚こそが、ロバート・ハーマン博士とのパイプを築き上げたのである。ロバート・ハーマン博士は、禅の研究のための適切な環境と師を熱心に探し求めていた。

ハーマン博士は妙心寺による布教活動のスポンサーになることに同意した。この同意をとりつけて、眞一和尚は京都に戻り、佐々木承周和尚を布教師として合衆国に派遣すべき旨、推挙した。承周が布教の実行にたる資質を備えていることを、眞一和尚は確信していた。管長はこの推挙を認め、この件を妙心寺宗務総長の、宮裡顕秀和尚に一任した。彼は次に、教学部長の林文道和尚にこの件を実行に移すよう依頼した。こうした人々と組織が係って、承周の合衆国行きに必要な環境が整ったのである。

## 5 ページ写真 上 注

妙心寺宗務総長宮裡顕秀和尚、1962 年

## 5 ページ写真 下 注

京都の法常寺、宮裡和尚の寺

## 6 ページ

1962 年 7 月 18 日、承周は彼の法系上の友にあたる山田無文老師やその他の幹部により、伝統的な別れの儀式である門送(4)をうけた。彼は妙心寺を出発した。7 月 21 日午後 9 時に羽田空港を出発し、同日の 7 月 21 日午前 6 時にロサンゼルス国際空港に到着した。空港でハーマン博士と会った。この後 5 年間、彼は彼のスポンサーが提供してくれたガーデナの小さな家に住んだ。

このガーデナの時代、承周は幸運にも、コードー・ロン・オルセンとジェンタイ・サンディ・スチュワートという二人の熱心な弟子に出会い、指導をした。承周の英語の能力は限られていたが、(禅に) 興味のある人々の集まりはだんだん大きくなった。家はだんだん手狭になり、駐車場も足りなくなった。1968 年 4 月 21 日、ガーデナから現住所であるシマロン・ストリートに引越し、臨濟寺が建立された。

このすぐ後、コードー和尚がロサンゼルス郊外のレドンドー・ビーチに承周禅寺を建立した。これはアメリカの禅の歴史の興味深い 1 ページである。つまり、初めて、得度をうけたアメリカ人僧侶が、自身の努力によって、自国に寺を建立したのである。実際、西部において、日本で得度をうけていない僧侶が臨濟宗の寺を建てたのはこれが初めてだった。

## 6 ページ写真 注

林文道和尚

## 7 ページ

ジェンタイ和尚はダルハムの近くにノースカロライナ禅センターを建立した。三人目の和尚のゲンロー・ヘルベルト・コウデラは、故国のオーストリアに帰って、ウィーンにボーディダルマ禅堂を建てた。(5)

ほとんどの西部の人々にとって、禅はまだ異教の宗教だった。だから、これらの禅センターは非常に困難な条件のもとで建立されたのである。強力なパトロンもないし、俗世間の支援もなく、こうした僧侶たち自身の努力がすべてだった。こうして、彼らは、修行にきた人々の友として、あるいはガイドとして生きるという使命を自ら背負ったのである。彼らは禅センターを建立するために自身の少ない資金から、費用を拠出した。

7 ページ写真 注

静岡の安南寺

## 8 ページ

年を経るにつれ、自身の法をより深く明らめるため、僧侶はマウント・ボールディ禅センターとジェメス・ボーディ・マンダラで大摂心に参加し続けた。

同じように、また、同じ精神に基づき、合衆国、カナダ、ニュージーランド、ヨーロッパの各地のメンバーが禅センターやグループを作った。

如来禅の目的は、法の働きである、縁起の法を把握し明らめることであった。修行者は宇宙万物とともに歩み、法の因縁を明らめることを

継続する。真理を体得しようとする修行者は、禅の開拓者である。

心より、修行をする全ての人々の健勝をお祈りする。

## 9 ページ 右 写真 注

1962年、合衆国に出発する直前の承周老師、妙心寺で

## 10 ページ

### 脚注

1. 日本の臨済禅には14の宗派がある。京都に、大徳寺、建仁寺、妙心寺、南禅寺、相国寺、天龍寺、東福寺、鎌倉に、円覚寺、建長寺、それ以外の地域に、永源寺、方広寺、向嶽寺、国泰寺、佛通寺である。
2. 大師、国師。これらは天皇から仏教の僧侶に賜る称号である。このふたつのうち大師のほうが位が高い。
3. 宗演老師は、その時、臨済禅の円覚寺の管長だった。13の宗派にはおのおの管長がいる。宗演老師は鈴木博士の多くの著書と回想のなかで、よく記憶されている人物である。
4. 門送は、「完成された人」を送り出す伝統的な儀礼である。完成されたとは、ここでは法を明らめた人のことである。
5. ニューヨーク市の最初の禅協会は今でも活動している、アメリカで最も古い組織である。その活動範囲と歴史はメアリー・ファルカス夫人が著している。彼女は設立者のうちで唯一、存命している。彼女の著作を参照願う。



## 11 ページ 写真 注

梶浦管長（中央にすわっている）と 24 人の日本の僧侶が妙心寺からマウント・ボールディー禅センターへ老師を訪ねた。妙心寺の幹部もいた。宗務総長の後藤純一和尚（管長の左側にたっている）、宗務総長補佐（訳注：花園会本部長）の千坂精道和尚（管長の前で膝をついている）。この一行のなかに、三浦承天老師のもとで修業をした老師の兄弟弟子が何人かいた。後ろにたっているのは、マウント・ボールディー禅センターのスタッフである。

## 12 ページ 写真 注

日本で老師が最後に住した寺である、正受庵の禅堂（左）と、方丈

## 13 ページ

日本より・・・

「ブッダは私と同年」

佐々木承周老師は 1907 年 4 月に生まれた。1921 年に彼は瑞龍寺で、この寺の建立者である三浦承天宗杲老師のもとで見習い僧となった。

老師はかつて、彼の入寺について、物語った。

14 歳のとき、家族が農家をしていた、宮城県の実家を出発して、海路 500 マイルを隔てる日本北部の北海道の札幌にきた。まだ冬で、地

面は雪に覆われていた。私は頃合いをみはからい、お釈迦様の誕生日である4月8日に札幌に到着した。

後に妙心寺管長になる承天宗杲の寺で禅の修行者になった。彼が札幌にいたのは、札幌の人々に禅を教えようとしたからである。ちょうど、私がアメリカ人を指導しようとして来たのと同じだ。その時、4人の僧侶がいた、歳は上は20歳、他の2人は私と同じくらいだった。

## 14 ページ

私が到着した後のある日、禅の師匠が、私が修行者になったことを記念して、茶会を催してくれた。彼は4人の僧侶と2人の他の修行者をあつめた。とても貧しい寺であったが、私たちはみな、ひとつの茶菓子と一杯のお茶をいただいた。しかし、ひとつの茶菓子でさえ、出すのは困難だったはずだ。

僧侶たちと若い修行者たちと一緒にお茶をすることは、私にとっては大変だった。作法が正しいかどうか、ずっと神経質になっていた。私は茶会の間、他の人たちがどのようにお茶をいただき、どのように茶菓子を食べるか観察して、どのようにふるまうか探っていたのである。

茶会が終わった後、師匠は立ち上がり、僧侶に目配せをして言った。「今日は君たちに何も質問はしない、しかし若い修行者にちょっと指針を示そうと思う。」私は最初に尋ねられるのではないかと心配し恐れた。しかし、師匠は言った。「寺に入った順番で尋ねよう。」こう聞いて自分が一番最後と分かった時、非常にほっとした。師匠は尋ねた。「ブッダは何歳か？」私は、最初に修行者がブッダの年齢は2500年と言ったのを憶えている。二番目の修行者の答えは憶えていない。私の頭はなんと答えたものかということではっきりと覚えていた。

14 ページ 写真 注

正受庵の鐘楼

## 15 ページ

とても強く頑張ったけど、いい答えはうかばなかった。だから、私の番になったとき、私は最初に思いついた考えを私の答えにしようと決心した。師匠が「ブッダは何歳か？」と尋ねた時、答えがさっとうかんだ。「ブッダの歳と私の歳は同じです。」師匠は他の人々を見て、私に視線を戻すと言った。「この若者は明日朝から坐禅を学ぶ準備ができています。」その時、師匠は私の答えが良かったのか悪かったのか言わなかったが、その夜に彼は坐禅に使う道具をみせてくれた。

### 15 ページ 写真 注

正受庵の庭

### 15 ページ 右の文

如来禅は、自我を寂滅することなくして、浄土に至ることはできないと説く。即ち、自我を寂滅せずに神にあうことも仏にあうこともないのである。

## 16 ページ

寺に入っすぐ後、この若い修行者は宗杲老師に典座に任じられた。彼は料理とお茶につかう水を井戸から運び、料理につかう薪割りをした。炉から灰をかきだすために手は真っ黒になり、手で汗をぬぐうと顔が黒くなった。鏡がなかったので、自分の顔がどうなっているかわからなかったから、他の僧侶は皆、彼のことを笑った。

承天の指導のもと承周は修行を続け、7年の後に、1928年21歳のときに和尚となり恭山（訳注：後に杏山に改める）という名を与えられた。後に、承天が妙心寺管長に任じられると承周和尚は彼につきしたがって、修行を続けた。続いて、1947年、40歳のとき、老師としての

職権をうけ、伝嚮室という参禅室を与えられた。そして瑞巖寺（訳注：宮城県松島）の塔頭である陽徳院の住職となった。

1953年、長野県の飯山にある正受庵の住職になるため、陽徳院を去った。正受庵は日本アルプスの人里離れた寺で、白隠の師匠である正受老人の創建である。老師はこの歴史的な寺を再建し、1962年7月に合衆国に派遣されるまで、禅の指導を続けた。

#### 16 ページ 右下の文

ゆえに、私たちはやや恐ろしいことを言う。あなたの自発的な行動として、あなたはあなたの自我を法の働きにより滅却しなくてはならないのである。

#### 17 ページ

承周は41年間、日本で僧侶として過ごし、そのうちの14年間、禅の師匠として指導にあたった。55歳になって、人々が引退を考える年頃、アメリカで新しいことをしようとしていた。彼が日本を離れてアメリカにやってきた時、彼の人生、また彼の指導をうけるアメリカの何千もの修行者の人生において、新たな1ページを開いたのである。

#### 17 ページ 絵 注

白隠禅師による、大徳寺創建者大燈国師の絵

#### 18 ページ 写真 注

老師のアメリカでの最初の家であり禅堂であるガーデナのマリボサ通 14912 に 1964 年に老師がつくった石庭

#### 19 ページ

・・・アメリカへ

「私はアメリカに禅が生まれるまで死なない」

1960年代初め、ロバート・ハーマン博士とグレイディス・ワイズバートはロサンゼルスのリトル・トーキョーの承周の禅寺のメンバーだった。この二人は、互いに臨済宗の僧侶をロサンゼルスに招こうとしていることに気付いていなかった。ワイズバート夫人は妙心寺の僧侶を自宅でもてなし、来て欲しいという要請を伝えた。ハーマン博士は日本に手紙をよこしたが、いい結果にむすびつかなかった。この二人が互いの努力を知った時、二人は共同作業することにした。

承周老師が合衆国に来る意向であることが明らかになった。ハーマン博士は、老師のスポンサーとして、経済的な責務を負うことに同意した。何通かの手紙がハーマン博士と寺にいる老師との間でかわされた。1962年7月までに、老師がこの国にくる準備が整った。妙心寺管長である古川大航老師は、アメリカでの禅の教化を開始するよう、承周老師に正式に要請した。

アメリカに禅をもたらすことは、日本に帰るという考えを断つことだとわかっていたから、老師は今生の別れの儀式を行い、正受庵の住職としての責務を一番弟子である酒井盤山昭道和尚に託した。

19 ページ 写真 注

老師とグラディス・ワイズバート、1962年8月、ガーデナの家にて

20 ページ

彼は「アメリカに禅が生まれるまで死なない」と誓いをたてて、日本をたちアメリカにむかった。

ハーマン博士は以下のように述懐する。

それは1962年の夏、たしかに7月21日だった。私はロサンゼルス空港の国際線のターミナルに立って、尾翼にJALのイニシャルのついたとても大きな飛行機がゲートまで走行しているのをみていた。他の乗客がおりたあと、茶色の袈裟をきた小さな男が階段をおりて、坂道をのぼってきた。それが佐々木承周老師だった。私たちはお辞儀をした。彼の英語はとても初心者レベルだったが、明瞭でわかりやすかった。彼は右そでに和英辞書、左そでに英和辞書をもってきたので、意思疎通に問題はなかった。一連の挨拶がおわったあと、私たちはもうアメリカでの最初の禅の集いというものになっていた。

ガーデナのマリポサ通りのコテージに到着すると、(そこは) 私が記憶していたよりも過ごしにくい環境だった。老師は、全く落胆することなく、入居して仕事についた。数日のうちに、乏しい道具と材料で、禅にふさわしい堂ができあがった。

20 ページ 写真 上 注

ジャック・ドレーク。臨濟寺の活動的なメンバー

20 ページ 写真 下 注

ジョーン・クレグ。ジェメス・ボーディ・マンダラの委員で、支持者

21 ページ

(それは) 世界でもっとも小さく貧しいものであった。それにしても、身体的な外見では何もわからない。すぐにわかったことだが、老師は、いかなる環境下にあっても自らの役割を実行するに足る、人格の流儀と力を備えていた。年がすぎ、疑わしげな顔がやってきて、見て、座って、お茶をのんでは帰っていった。そして数人がとどまり、(宗旨を) うちたて始めた。老師は我々の中心であり、父であり母であり、

師匠であり友であった。

老師は以下のように記憶している。

「私は正受庵というお寺の住職であった。白隠が継承者となったのはこの寺である。とても有名な寺だが、日本でもっとも貧乏だった。私はやぎのエサを食べていた。そのためお金がなく、自分の費用で合衆国に行くことができなかった所以である。妙心寺がここにくるチケットをくれた。それで私はきた。非常によかった。私の手持ちの金は200ドルだった。誰もが驚いていた。私は小さな和英辞書を左のポケットに、英和辞書を右に置いておいた。今思うと、本当に大胆だった。」

## 21 ページ 写真 注

1962年8月、初期の支持者たち。一番右がロバート・ハーマン博士。

## 22 ページ

「私のスポンサーは一軒の家を貸してくれ、一枚の毛布と畳をくれた。住職は食事できるのかと思ってくれたのだろう。彼らはやってきて食べ物と調理に必要なガスストーブをくれた。私は1回でストーブに火をいれることができた。日本では薪をたき、手は炭で真っ黒になったものだった。だから、ここで進歩した生活をおくるのだ、と思った。しかし、夜になって眠ると、床はかたく背中が痛み、カリフォルニアでも寒かった。真夜中になって、服をすべてとりだしてきて、上にかけてねたものだ。」

ほどなくして、横井夫人が訪れてきた。老師が必要なものを考えて、翌日、毛布、マットレスとタタミを床にしくために持ってきた。老師は喜んだ。老師は文句を言うのを嫌ったから、修行者が彼に必要な物が何か気付くのに少し時間がかかった。

老師は彼の家を坐禅と参禅のための場所とした。昼は彼の家、夜は禅堂だった。そこは後のマリポサ臨済禅道場として知られる。彼は禅の

集まりを平日の夜と土曜の朝に催した。また、彼は修行者の家において一週間に一回、集まりを行った。彼は直日、聖侍、典座の役割をし、参禅させ、集まりの最後には看経を先導した。彼はお茶をいれて修行者に出した。彼らは座って冗談をいったり笑ったりしていた。老師の門は常に開かれていた。彼は修行者にすすめて、何時でも電話をかけてきて、個人的な問題を話し合おうと言っていた。

## 22 ページ 右上 文章

もし師家という言葉の意味するところを理解しないならば、大きな過ちを犯すだろう。師家は単なる教師ではない。師家であるということは、意志が介在しない、馳求することなき、法そのものの働きになるということである。しかし、もしあなたが意志という地平から意志の介在しない師家にこたえるならば、師家もまた意志を述べて棒で打つだろう。

## 22 ページ 右下 文章

凡庸な禅の教えでは、何も考えるべきではないとか、何も考えないことを考えるべきとかいう指導がされることが多い。修行者はそれはできないということが多い。その反対に、一音を聞いた瞬間に、あなたをその知覚対象に委ねたならば、あなたは何も考えないという地平にいるのである。そのように（自身を対象に）委ねることが、万物の存在の究極の状態の実現なのである。

## 23 ページ

それからすぐあと、老師と彼の支持者たちは、法的な宗教団体を設立する必要があると決心した。その手続きは1963年11月に行われ、名称は臨済禅道場協会だった。老師の早くからの支持者が理事会を構成した。ロバート・ハーマン、ジョージ・スタンニッチ、リチャード・ヒトルマン、アーリーン・オーバーヒュルサー、エド・コーネル、バーナード・ガトウィリング、ギセラ・マイヤー、キョウツグ・ツチヤ、そしてダン・スナダである。

## 修行者の家での禅の集まり



モルト・レビットは、早くからの支持者だが、ホランダー夫人を老師に紹介した。彼女はハリウッドヒルの彼女の自宅で週一回の禪の集まりを行ってくれるよう、老師を招待した。老師は 1962 年から 1963 年までそのようにした。

### 23 ページ 写真 右上 注

老師と、モウルディン夫人、タナハシ夫人

### 23 ページ 写真 左下 注

臨濟禪道場の設立理事のオーバーハスラー夫人

## 24 ページ

千崎如幻和尚の修行者だった 3 人の女性、ルーサ・モールドイン、タカハシ夫人、リリー・コフマンも、承周老師の早くからの支持者であった。コフマン夫人の家もハリウッドヒルにあったが、1963 年と 1964 年に坐禪が彼女の家で行われた。彼女の家には、とてもすばらしい、大きい中庭があった。経行の間、老師は修行者たちを外の、ひんやりとした月夜に導いた。クリケットの音とほとぼしる滝が耳に心地よかった。

そこでの禪の集まりの後のある夜、老師は次のように指示した。「禪をはじめる者が両手で確実に円の形をつくることは重要だ。右手の平の中に左手をおき、両手の親指を軽く押し合わせ、臍にむかって手を安んじる。その形の中に満月をおき、あなた自身をその満月のなかにおきなさい。」この後、彼はもう一度、月明かりのもと、坐禪と経行の時間をもった。コーシン・リリー・コフマンは以下の通り思い出を語った。

「私が毎週火曜日の夕方にハリウッドヒルの家で坐禪をするために老師を招いたのは、多分老師がアメリカに来て二年目だったと思う。誰

かがガーデナから彼を車にのせてきた。お布施をいれる器の中がなんであれ、十分であるとはいえないわ。」

## 24 ページ 写真 注

1965 年、ホワイトニー山でのキャンプ

## 25 ページ

「私の家と庭は、ほんとうに（禅の集まりの）目的にかなって使われました。坐るために大きなテラス付きの居間がありました。庭のふたつの滝は、経行のときに BGM になりました。平均すると 12 人ほどの真面目な坐禅の参加者がいました。」

ジョージ・スタンニッチはスエオ・セリサワを老師に紹介した。彼はビバリーヒルズ出身の芸術家だった。老師は 1964 年、しばらくの間、禅の集まりを彼のスタジオで催した。ジョージはフレッド・シュワンコフスキーを紹介した。彼は土曜日の夜に、ラウナ・ビーチの自宅に老師を招いた。こうした集まりは 2 年間続いた。最初の週末摂心は 1964 年の夏にそこで行われた。ジョージは長い走るような経行に苦しんだことを思い出した。

1964 年に、老師は何年も眼鏡のガラスに関心をもつジム・メイシー博士の家で、画期的な坐禅会を催した。老師はまた、1964 年から 1965 年まで、ハリウッドヒルのケベック・ドライブにあるケイ・ホワイト夫人の家で毎週集まりを開いた。また 1966 年にはマジェスカキャニオンにある、ある家でも集まりを開いた。

禅の集まりのために修行者の家に行っていたとき、老師は全ての坐蒲を禅堂から修行者の車にのせ、道すがら身をぎゅっと縮めていた。

## 25 ページ 右上 文章

自我とよばれるものは、・・・その内容として意識をもっている。そしてもし、その自我が意識を發展させないならば、自我は法の働きと関

連しはじめ、自我は怪物のような思考を終息させるのである。

## 25 ページ 右下 文章

どんなに意志を把握しようとしても、実際には法の働きがあなたをくじくのである。それゆえに経典に曰く、「いかなるところでも、とどまるころなしに心をおこさなくてはならない（訳注：「応無所住而生其心」、金剛経の一節）。」 執着のない、しなやかで固まらない自己をおこそうという強い意志をもたなくてはならない。

## 26 ページ

### マリポサ石庭

1964年、老師と修行者たちは、家の前の芝生を美しい石庭につくりかえた。ダン・スナダの軽トラックを使って、マウント・ボールディの道脇から10トンの岩をひきずりだした。庭造りは、1967年に完了した。

その後、ふたつめの石庭がハーマン博士の家につくられた。完成は1968年。ダン・スナダはマリーナランドに近い海岸沿いから12トン近い岩をひきずりだしてきた。

年をへても、ダンには2つの石庭を維持した。

1966年までに、マリポサ禅堂はかなり混みあってきた。駐車は本当に問題で、修行者は近隣とのトラブルを避けるために、1ブロックも向こうに駐車するはめになった。若い修行者の中には、長いあごひげを生やし、長い衣をきて数珠をもっていた。近所の人たちはいぶかしげな目で彼らが行きかうのを見ていた。

駐車状況が悪化すると、近隣住民は市に抗議をした。グループは区域規制に違反することがわかり、30日間の活動停止の処分が言いわたされた。

## 26 ページ

レナード・コーエン、臨濟寺の長きにわたるメンバーであり、味方である。

## 27 ページ

マリポサの石庭 (詳細)

## 28 ページ

そこで、1966年の夏、新しい禅堂を探す必要となった。修行者たちがうまく探しあてられないなか、ハーマン博士はガーデナのヴァン・ネス通り 14015 の彼のオフィスを、禅堂のためにあけわたした。そのオフィスは、長くて狭い L 字型の、通路のようなホールにいくつかの部屋が隣接している間取りだった。老師は月曜日から金曜日の午前 6 時、火曜日から金曜日の午後 8 時に、参禅を伴う坐禅を催した。日曜日の朝 10 時には、数ブロック先のローリーメモリアル公園で坐禅をした。これはより大きい禅堂が必要だったからである。月曜日の夜には老師は彼の坐蒲をクレアモントにもっていった。

新しいオフィスの禅堂は、恒久的なセンターを見つけるまでの、一時的な場所と考えられていた。しかし、集まりは 1968 年 1 月までそこで続けられたのである。

## 老師の 60 歳の誕生日

1967 年に、修行者とパトロンは老師の 60 歳の誕生日を祝して、盛大にパーティを開いた。老師は以下のように挨拶した。

あなたたちは皆、ある意味で、美しくこの世界にうまれた。あなたたちが生まれた時、あなたたちが全く、完全であったことを大変うれしく思う。だから、私はあなたたち全員の誕生日を祝う。あなたたちは常に、あなたの真の本質によって、新たな存在となる機会がある。

## 29 ページ

どのような言葉を紡ぎだそうと考え、試みようとしても、私のためのこの祝宴に対する感謝をのべるために適切な言葉はみつからない。私の本質が宇宙そのものとピタリと一致したようだ。あなたにこのことを伝えるために言葉は必要ないと思う。私の今の気持ちを、俳句に詠みたい。

行くべきところもなく  
いかなるところへも行く必要はない  
なぜなら宇宙とともにあるからだ

皆、誕生日おめでとう。そうだ！ この幸せな機会に、尋ねよう。君たちには過去、現在、未来があるか？（先ほど、）君たちは宇宙にあって、曲に合わせて手をたたいていた。君たちが私の誕生日を祝ったとき、君たち自身の誕生日を祝っていたのだ。だから、このように理解して、私は皆さん全員に今日、新しい存在になってもらいたい。

## イディルワイルド 大摂心

1967年7月21日までに、承周老師はアメリカで5年にわたり指導をしていた。老師の5周年を記念して、彼は初めて、7月21日に始まる7日間の大摂心を催した。大摂心は、サン・ヤシント山のイディルワイルド村の近くのジョン・コベル博士の山荘で行われた。

### 29 ページ 右上 文章

金持ちになりたいとか、国家の大統領になりたいとか、偉大な政治家になりたいとか、そういったお決まりの野心というものは全て、人生を苦しくする瑣末事にすぎない。

### 29 ページ 右下 文章

関係性を遮る自我、障壁をつくる自我、これは松の木だとか鳥だとか人間だとか関係性の言葉を定義したがる自我、関係性をはばむ自我、これらは未熟な自我である。自我が関係性を遮ることをやめると、完全な世界への委ね、あるいは寂滅がおこり、時間が統一され、すばらしい世界が現前する。

## 30 ページ

山の松の木々が美しい景色をなした。18人の修行者が全期間に参加し、4人が一部参加だった。費用は14ドルだった。ダン・スナダが通訳をおこなった。

夕立ちが大きな丸い石を真っすぐにうちつけた。修行者たちは岩の上に立って、氷のように冷たいシャワーを浴びようとした。トイレも外に作られた。眠るのに十分な場所がなく、修行者たちは蚊と一緒に山で寝たが、これは大いに問題だった。

老師は小さな移動式の住宅を持っていた。これは坐禅の部屋に使われた。これは晴れた午後には、息づまるような暑さだった。

修行者の誰も、以前に摂心をしたことはなかった。しかし、何人かは鈴木博士の摂心の説明の翻訳を読んでいた。そこには、警策をうけるための合図でお辞儀をするということも含まれていた。最初は、修行者はためらったが、参禅が始まるまでには、ほとんどの人が新しい体験をしたいと思うようになった。これが（皆が警策を受けたいと）騒ぎとなり、老師は参禅の間使われることのない言葉をこの棒のために使うこととなった。これはあまりに気が散ることだった。そのとき、警策をうけるときに請わないことが慣習となり、今日に至るまでの慣習であ

る。

訓練の強烈さを常としていなかったが、修行者たちは坐禅に肉体的・精神的に苦しみを感じた。ある者は時々小休止して、警策で肩を揉んでいた。

### 30 ページ 右 文章

我々は、愛や憎しみは、自我がかたくなになっているときにおこる、と説く。実際には愛も憎しみもない。善も悪もない。法の働きだけがある。それだけで、他には何もない。もし自我を固定的なものとして保持し、自我を物のように存在すると自分を晦まし、自我を固定するならば、愛と憎しみの世界をつくってしまう責任はあなたにある。

### 31 ページ

またある者は屋外の禅堂を飛び回っていたあぶと蚊を払うために棒を使った。痛みと、慣れ親しんだ便利さがないこと、参禅で何度も老師に相對することで、多くの修行者にとって強い経験となった。

老師は提唱のなかで、修行者にむかって、参禅での接見に備えて、自由時間を坐禅に費やすように言った。老師は言った。「参禅にあたっては、生死の問題である。殺すか殺されるかだ！」

1962年に老師が来てから5年が過ぎた。多くの修行者が来ては去った。老師は生涯を禅にささげ、彼の下で修業をし、僧侶としての責務を全うする人を探していた。この方向性で老師が手ごたえを感じる人物がふたりいた。1人は、ロン・オルセンで1964年2月から修行していた。もう1人はサンディー・スチュアートで、1967年5月に修行に加わった。

### 31 ページ 写真 右上

コーダー・ロンとミヨーセン・マルシア・オルセン

31 ページ 写真 右下

ジェンタイ・サンディ・スチュアート

## 32 ページ

ロンとサンディーはマリボサ通りのガレージ禅堂に引っ越し、禅の沙弥として修行した。2人は典座、庭の係、秘書、そして最初の禅堂の係員として働いた。これで老師は、彼のエネルギーを参禅だけにささげることができるようになった。

老師の方針のもと、ある修行者が沙弥のための最初の僧衣を作った。老師はどのような色がいいか言った。明るいウコン色が選ばれた。後に、茶色の袴と着物が僧侶のために作られた。黒い袴と着物は正規の修行者のために作られた。

1967年の夏、初心者と熟達した修行者の両方と、新しい禅センターがどんどん増え続けたので、老師は複雑化する状況を監督するためにより強力な組織が必要であると判断した。この状況の変化を反映した新しい名前が決められ、臨済禅道場協会は解散し、宗教法人臨済寺となった。同時に、シマロン禅センターを購入して、老師の新しい教化のための拠点とした。臨済寺の法人設立と、シマロンの譲渡手続は、ともに1968年1月26日に完了した。

## 3つの主なセンター

シマロン



マウント・ボールディ

ジェメス・スプリングス

34 ページ 写真 注

シマロンの中庭

35 ページ

シマロン禅センター

「シマロンは世界で最も汚い禅センターだ！」

シマロン禅センターは臨済寺の本部の寺として機能した。シマロンを構成する複雑な建物群は、1920年代に、カリフォルニアの上院議員が友人への贈り物として建設されたものである。聖堂の天井を備えた、広々としたメインホールは、すばらしい禅堂であった。周囲の壁は、街の真ん中であって、(喧騒を)遮断してくれた。その他のいろいろな構造は、禅センターの必要を満たすものだった。

しかし、(当初は) そうとも限らなかった。1968年1月に購入したとき、この建物は1年近く無人だった。近所の人たちが集会につかい、また心ない人たちによる損害が多々あった。窓は割られ、天井や壁には穴があき、電気系統や配管はひきはがされていた。実際、市は居住には危険だと宣告していた。老師は言った、「シマロンは世界で一番汚い禅センターだ！」。

老師は、彼の誕生日の4月21日に、開所式を行いたいと思った。老師はダン・スナダとともに、改装計画をたてた。ダンはこの計画の責

任者となり、修行者を要員として組織した。老師は何度も修行者とならんで働いた。

### 35 ページ 写真 注

シマロン禪堂

### 36 ページ 写真 注

シマロン禪センターでの大摂心 1972 年

### 38 ページ 左上 文章

考える自我は、主体と客体を作り出してしまふ。考える自我が存在する限り、思考という活動に陥りつづけ、常に主体や客体にあらわれてしまふ。

### 38 ページ 右下 文章

仏教は、思考する自我、疑問し疑惑を感じ、分別する自我を滅却するように教える。それにより、完全な自己が現れるのである。

## 39 ページ

4月の始め、老師は摂心を催すためにブリティッシュ・コロンビア州のバンクーバーに行った。4月21日に戻ってきて約200人の人が老師の誕生日とシマロン禪センターの開所を祝った。それは本当に幸せな瞬間だった。アメリカで6年を経て、承周老師はついに恒久的な臨済禪のセンターを設立したのだった。

### 39 ページ 写真 右上 注

臨済寺の管理委員会のメンバー、左からキム・サリスバリー、ジェフ・グリーク、ダン・スナダ、リチャード・シュナベル、ブレット・ガド

ボイス

39 ページ 写真 左下 注

シマロンの入り口のゲート

39 ページ 右下 文章

人類は、人類以外の存在から分断されておらず、人類以外の存在と異なるものではなく、人類以外の存在より優越しているものでもないとの正しい叡智を完成させるために労を惜しんではならない、このように仏教は説く。

40 ページ

老師はこの後 2 年間、ほぼ毎朝と毎夕、参禅の機会をもうけた。シマロンに住む沙弥と禅修行者は誰も、集まりを欠席することは認められなかった。修行は厳しかった。坐禅の間、ずっと警策が使われた。お辞儀を忘れたり坐禅中に動いたりした者はだれであれ、直日にどなられた。老師自ら、しばしば経行を観察し、出歩いてきては、修行者たちが正しい修行を行っているか見守った。時に、老師は警策をもって指導する姿勢で歩き、修行者たちに警策を使った。留まる者は、厳しい修行のもと、どんどん強くなった。

40 ページ 写真 注

シマロンのスタッフ、テイシン・ユーナイス・トロッパー（左）とドーゴ・ドナルド・スキャンロン

41 ページ 写真 注

花祭りのお祝い

42 ページ

1962年に禅センターを購入したあと、追加で4つの近隣の家宅を取得した。ゲンテイ庵をメンバーの寄付の積立金で購入した。これはシマロンの修行者の寮となった。通りをはさんで、ゲンロ庵、デンキョウ庵、そしてハシェンダがあった。これらは、禅センターに住むことを希望する修行者に追加の部屋をもたらすもので、またマウント・ボールディ禅センターのための市内の居宅であった。

42 ページ 写真 左 注

ゲンテイ庵

42 ページ 写真 右上 注

ゲンロ庵 (左) とデンキョウ庵

42 ページ 写真 右下 注

ハシェンダ

## 43 ページ

1977年、妙心寺管長梶浦老師が28人の日本人僧侶とレポーターと一緒にアメリカを訪問する際、シマロンが応接した。先遣隊が合衆国にやってきて、老師のアメリカでの教化の15周年を謝し、すばらしい手彫りの白檀の観音像を贈呈した。観音とは慈悲の女神である。この像は彫るのに一年を費やした。白檀の木のブロックは、インドから管長に贈られたものだ。管長は開眼式を行って、観音の目が象徴的に開かれ、1977年10月18日にシマロン禅センターで「観音が我々を見、我々が観音をみる」ということになった。

マウント・ボールディ禅センターがメインの修行センターであったとき、シマロンは住民や近隣地区の人々のための、日々の坐禅修行の場を提供し続けた。老師は多忙なスケジュールが許す限り、シマロンで、終日と週末の摂心、参禅、提唱を続けた。シマロンはまた、最も重要な宗教儀式を主催した。今では、(その機能は) アメリカの臨済寺の本山に残っている。

#### 43 ページ 写真 注

妙心寺管長梶浦によって老師に贈られた観音像 白檀の一木から彫られたもの

#### 44 ページ 写真 注

梶浦管長（座っている）、彼の左側が妙心寺宗務総長の江西和尚。管長の右、後ろに立っているのが、正眼寺住職で梶浦管長の後継である谷耕月老師。シマロンにて、1976年に老師を訪ねたとき。承周老師のアメリカでの15周年を称えて、管長は24人の僧侶とともに帰国した。

#### 45 ページ 文章

生と死に係る、タターガタ（如来）禪の教えは次の通りである。生に関して、従来の生を超越していき、従来の生から救いの地平へと遷移するよう、完成のプロセスをふまなくてはならない。死に関して、死にゆく局面において完成のプロセスをふみ、そのプロセスを深めることで自由の地平にとびこえていくよう、プロセスを発展させなくてはならない。

成長と完成のプロセスに慣れ親しむほど、私たちはあらゆる瞬間において自我を（世界に）委ねようとする。そうした（世界への）委ね、与えが明白な生へ動いていくとき、従来の生、ある時には意思というが、それが死、寂滅に向かう動きに委ねられるのである。自我をより専心に与えるとき、より死とともにある人間になるのである。

これが禪修行の燈火である。

もし修行者が公案を通ることが禪修行の全体と考えているなら、これはよくある間違いである。

もし完全に生のプロセスに入ったなら、もはや公案は必要ない。

もし完全に死のプロセスに入ったなら、もし完全に死のプロセスを受け入れたなら、公案は滅失する。

#### 46 ページ 写真 注

粥座の後、禪堂に戻る。マウント・ボールディに日がのぼる。

## 47 ページ

### マウント・ボールディ禅センター

マウント・ボールディは、強く禅修業に自らを投じる人々のためにあり続ける。

マウント・ボールディ禅センターは、臨済寺の主要な禅センターである。周囲の景観は、急峻な峰や溪谷、そして巨大な針葉樹であり、その荒けずりな美しさは、禅修業の大自然の禅堂のようである。ロサンゼルスから東 40 マイルのガブリエル山脈に位置し、マウント・ボールディは人里離れているが、人が来ることのできる場所ではあった。老師は 15 年にわたりここで夏と冬の修業期間をもうけた。そして、センターは、アメリカの禅サークルのあいだで、厳格な修業ができることと評判になった。通常、1 日 19 時間の摂心が繰り返し実施された。

ほとんどの臨済寺の僧侶は、マウント・ボールディで修業をしている。今では 5 人の沙弥と 1 人の僧侶がスタッフとなり、12 人がまたそれ以上の人数の修行者が、丸 3 カ月の修業期間をすごしている。摂心ではたいてい、さらに 30 人の修行者が来るため、センターは時には満員になって締め切る必要があった。

### 47 ページ 文章

修業を通して、思考する自我を捨てたとき、思考する必要がないとの見地に達したとき、完全なる寂滅に入ることができるのである。そこでは、主体と客体がひとつに融合するのである。

### 49 ページ 写真 左中央

雪に覆われるマウント・ボールディ（左）が禅センターの上にそびえる。禅センターは谷底に位置する。

49 ページ 文章 右下

もし私たちが本来備える叡智が完成すると、石であるとか鳥であるとか木であるとか、私たちが考える形のものが何であれ、それは私たちの外にあるものではなく、確かに我々と不可分であるということがわかるのである。

50 ページ 写真 左

行堂 看経中

50 ページ 文章 右上

生滅の働きについて深い洞察をした者は、自らを構成しているものが全宇宙を構成しているものと同じであると知り、完全な静寂（涅槃）に生きるのである。

50 ページ 写真 右下 注

マウント・ボールディ禅センターのスタッフ。左から、ミョウコ・ジュディ・マクレーン、トーコ・クリストフ・アンデル、コーヨー・チャールズ・エンゲナッチ、ミョウケン・ダイアン・セグヘシオ、ツ・オマキアス・コーエル

51 ページ 文章 右上

坐禅の姿勢それ自体が、従前の世界より高等な世界への入り口である。それは父母未生以前の世界への入り口である。

51 ページ 文章 左下

坐禅の姿勢ですわっているとき、まだ思考という働きにとらわれているなら、従前の世界より高等な世界に入ることを自ら拒否することになる。

52 ページ 写真 右上

参禅！

### 52 ページ 文章 右下

如来禅の非常に明確な教えでは、人類とよぶべきものは必ず涅槃に到るのである。それは主体と客体がひとつになった世界であり、そこでは自我とよばれるものは滅却するのである。

### 53 ページ

マウント・ボールディ禅センターは1971年に取得した。クレアモントの坐禅グループが、修業のための恒久的な場所を探していたのである。このグループは、ラグーナ・ビーチの集まりが終わった後の1966年にできた。そのメンバーの1人であるマーク・ジョスリンが、老師をクレアモントに招いた。集まりはまず、クレアモント大学連盟のマッカリスター宗教センターでひらかれ、のちにクエイカー教会でひらかれた。1962年から1966年の間に始まった禅グループの中で、残ったのはこのグループだけだった。

1970年の春、マークは活動中止だったマウント・ボールディのボーイスカウトを設立した。老師がその場所を見たとき、すぐに山の禅センターへ移動する計画をりはじめた。土地は、森林の所轄当局から99年間、借りることになった。老師は最初の大摂心を行った1970年8月に、多くの僧侶をここに派遣し始めた。当局は、1971年4月にキャンプ地を禅センターとして使うことを許可した。そして、正式に、臨濟寺のマウント・ボールディ禅センターが設立されたのである。

### 53 ページ 写真 右上

マウント・ボールディの湯船

### 53 ページ 文章 右下

絶対的な存在は完全に統一されている。絶対的な存在が人間という地平に自らをあらわすとき、それは完全な統合を分かち男と女という側面、



母と父という側面となってあらわれる。これらの側面が相互に作用することで、もうひとつの自我が生まれ、絶対的な存在は完全なる形を失い、こうした見かけの、分割された形になるのである。

生じた自我は外部としての父親を自らにもたらし、内部としての母親を自らにもたらし。いいかえると、生じた自我は絶対的な存在の全体、神の全体をみることはない。生じた自我は、ひととき、神の半面を見るにすぎない。

#### 53 ページ 写真 左下

ダン・スナダ マウント・ボールディの共同設立者

#### 54 ページ 写真 注

神戸の祥福寺の河野太通老師（承周老師の左に座る）（訳注：花園大学現総長、元妙心寺管長、神戸祥福僧堂師家）、そして山田老師の法の継承者たち。1970年にマウント・ボールディ禅センターを訪れる。承周老師の右は花園大学教授の木村静雄和尚。

#### 55 ページ 写真 左 注

祥福寺僧堂 山田無文老師（中央）、1971年にマウント・ボールディを訪れる。彼の左側が、則竹秀南老師、後に無文老師の法の継承者となる。彼の右側は正受庵住職の酒井昭道和尚

#### 55 ページ 写真 右 注

梶浦管長と日本人僧侶がマウント・ボールディを訪問

#### 56 ページ 写真 注

臘八大摂心の後、1972年12月24日。ショーザン・マーク・ジョスリン、マウント・ボールディ禅センターの共同設立者

## 57 ページ

マウント・ボールディの物理的構造は、施設を借り受けてからほとんど変わらなかった。新しい浴室ができ、また他の小屋も改装された。しかし、森林当局の規制により、大抵の改装は禁止されていた。老師の部屋は、小さなボーイスカウト用の小屋で、給水設備は設置されてから14年たった！ マウント・ボールディではトイレの問題が常につきまとった。水不足で排水設備も乏しく、大きな集団ではトイレに水を流すことは出来なかった。4つの屋外用化学式トイレが用をたしたが、これはかなり滑稽で、快適とはいえなかった。しかし、設備が先進的とはいえなかったが、マウント・ボールディ禅センターは強く禅修行に身を投じる人々のためにありつづけた。

秋と春の間、マウント・ボールディはやや非公式的な休業期間である、制間となる。朝と夕方の坐禅と毎日の作務の時間。禅センターの設備の維持に加え、制間の修行者は公共の水道設備の維持も行い、山の標高の高い区域にある小屋の配管の修理もした。この仕事をする事で、地域と良好なつながりができ、地域の支援と敬意を勝ち取ることが出来た。自由時間の間、制間中のマウント・ボールディに老師が戻ってきて、大摂心を催した。テキ・オ・マイケル・ランフォードはこのときセンターの副住職だった。

### 57 ページ 写真 右上 注

テキ・オ・マイケル・ランフォード、マウント・ボールディ禅センターの副住職

### 57 ページ 写真 右下 注

マウント・ボールディの化学式トイレ

## 58 ページ 文章

自我が真に完成するということは、ちょうど月が新月から満月に成長するようなものと言っていい。自我が完全に完成すると、一点の輝きのようなものから始まって、空を照らし出すほどの輝きになるのである。

このような自我の完成は、光の全き広がりであり、輝きが現れることである。

私たち自身の輝きを完成へと開花させ、完成にいたる適切な方向性を与えてくれるのが、タターガタ（如来）禪の特徴的なところである。

この全てのことから学んでほしいことは、あなたの自我が根本的に光のようなものということである。あなた自身を完成させることで、あなたが世界にむかって輝きをひろげられるところまで光を完成させるのである。

結論として、私たちが問題としているこの輝きが、意識と同一であることを指摘しておく。

完全な輝きがあるところ、完全な意識がある。不完全な輝きしかないところには、分別があり、差別があり、疑念があるのである。

60 ページ 写真 注

ジェメス・ボーディ・マンダラ温泉、背後にジェメス川

61 ページ

ジェメス・ボーディ・マンダラ

「温泉を見つけたのか、来るよ。」

61 ページ 写真 注

ニューメキシコ州、サンディエゴ溪谷。ボーディはここから 20 マイル北の溪谷にある。

ジェメス・ボーディ・マンダラは臨濟寺の2番目の修行センターである。承周老師は秋と春に結制（修業期間のこと）を催した。ボーディはニューメキシコ州北部のジェメス山脈に位置し、隆起した台地が谷底から2000フィートもそびえる、特異な溪谷にある。ジェメス川は禅センターの中を流れており、川沿いにはいくつも温泉がある。このすぐ北には、精霊に仕える人々の修道院がある。南にいくと、ジェメスとツィアの原住民の集落がある。かつては、アル・カポネの潜伏先などと噂された。

62 ページ 写真 右上及び左下

朝と夕方の温泉

62 ページ 文章

天国は全ての人のまえに速やかにあらわれるが、そこに至るにはもっとも強い決意と努力が必要であることをあなたたちに指摘しておきたい。

63 ページ

最初の10年間、ボーディは正式な禅修行と、（訳注：修業期間中、子供の教育をどうするのかといった）家庭や世帯主の状況との関係を模索した。ボーディでは強い禁欲的なスタイルの修行はここに住む1人の修行者だけでとりおこなっていた。それ以外の時は、ここに住む多くの子供たちのための学校教師を雇うことを試みた。こうした変化をとおして、ボーディは日々の坐禅と共同体的な仕事をやりつづけ、何度も老師が摂心をおこなった。

63 ページ 文章

生じた自我は、ここ、活動的な地平にあらわれ、既に活動的なプロセスに組み込まれている。生じた自我はブッダの世界を離れ、神の世界を離れ、差別する意識を進化生成するのである。

## 64 ページ

何年もの間、現場でかなりの努力がなされた。今では美しい景観に囲まれた温泉は、1974年にはひとつしか入れなかった。昔のピッチアンド putt ゴルフ場には果樹園がつくられ、野菜畑がほぼ年間に必要な分がとれるほどに拡充された。修行や摂心をしにくる人々の数がふえて、宿泊施設が建設された。地熱を利用した暖房設備もつくられた。

温泉と、広々とした施設、この上ない環境に恵まれ、ボーディは講習会をするよそのグループに建物を貸すことで収入を得ていた。いくつかの別荘業者が追加収入をもたらしてくれた。彼らは、(ボーディの)不動産で宿泊所を経営したり、駐車場を経営したり、様々な工芸品や食品を生産したりした。

### 64 ページ 写真 右上 注

ミシェル・マーティン、ボーディ・マンダラ共同設立者

### 64 ページ 写真 左下 注

梶浦管長のジェメス・ボーディ・マンダラ訪問を記念して、右から、千坂精道和尚（訳注：花園会本部長）、承周老師、梶浦管長、後藤純一和尚（訳注：妙心寺宗務総長）、妙心寺教学部長の釈義雄和尚。

## 65 ページ

ボーディは1974年に臨濟寺の組織に加わった。ミシェル・マーティンはマウント・ボールディの修行者で、ニューメキシコ州に住んでいた。彼女は老師に、こちらに来て摂心をしてもらえないか尋ねた。老師はおどけて答えた。「君は温泉を見つけたのか、来るよ。」ミシェルがニューメキシコに戻ると、彼女とマリア・シャボットはジェメス・スプリング村の温泉のあるカソリックの修道院が売りに出されているのを見つけた。2人は老師を招き、禅の叢林にふさわしい場所かどうか、点検してもらった。こうしてジェメス・ボーディ・マンダラができたの

である。

65 ページ 写真 右上 注

ボーディの建物群

65 ページ 写真 右下 注

裏手にある寮の花壇

66 ページ 写真 注

ボーディ禅堂

67 ページ 写真 右下 注

ボーディのスタッフ、前列左から、ゴラン・ニールソン、ピーター・スタンダー、住職であるセイシュー・ロバート・マモーザー、ジェフ・ルーベット、カレン・タサカ、後列左から、ジュンドウ・ロン・コックス、コジュン・ダイアン・コックス、ジョクン・ジェフ・ウエップ、ホーセン・クリスチャン・マモーザー、ギシュ・クリス・ジャップ

68 ページ

広範囲にわたる修繕が完了し、1974年3月の最初の摂心に間にあった。摂心の後、老師は2人の僧侶にここに住持するように命じ、禅堂の修行と作務のスケジュールがたてられた。初期の頃には、叢林は2人の僧侶の指導のもとに発展した。ジェンタイ・サンディ・スチュワートとジェントロ・ハーバート・コウデラだった。過去6年間、ボーディはセイシュウ・ボブ・マモーザーの指導下にあった。しかし、直近ではかなりの数の住人がよりおおくの時間参加し、叢林を指導するような人々の参加が多くなった。

老師は近隣する共同体との良い関係を保つことが重要だと強調した。ボーディには常に、土地の人々と相互にいい関係を築くための有益なやり方があった。これまで、禪修行者は河川の清掃、消防団員、町の縁日に参加した。住人は町の人々と共同で、温泉を利用した暖房設備の研究をおこなった。

春の結制の間、ボーディは経典の講習会を主催した。仏教学者が老師と合流し、仏教経典と根本的な教理について一連の講義を行った。ボーディはまた、道を1マイル下ったところにある、熟慮の上に最近購入された不動産について禅堂にする計画にも加わった。

## 69 ページ 文章

言語の世界に生きているわたしたちにとって、修行に身を投じるときにとっても重要な事は、世界は言語を超越しているという洞察である。

しかし、言語の世界にとらわれたままの人々は、言葉の世界が根本的に唯一の世界であると信じているので、だいたい死に関して大きな恐怖を抱いている。一般的に、言葉の世界にとらわれたままの人は、言葉の世界とそれに関連するすべてが唯一の世界であると思っている。その上で、そうした人々はもっとも贅沢で快適なライフスタイルを獲得しようと思ひ、他者と関係しようと思わない。こうした人々はどうしても苦しみの運命となる。

私たちの状況について敏感になってみると、言語の世界が全く実質的なものとしてあらわれるにもかかわらず、それは確かに仮のものであって、常に寂滅するものなのであるとわかるのである。寂滅の全容と、言葉の世界を超越するものを見極めると、この世界にあって涅槃の境地に生きることができるのである。

## 71 ページ

### 経典の講習会

経典に関する夏期講習会が開催され、修行者が仏教の教理的側面を把握して修行を達成するのに役立った。

老師が最初の講習会の導入で言った。「アメリカの禅修行者と15年間過ごして、印象的な現象を見た。アメリカの人々は、従前通りの『自我』という概念にとらわれたままの状態、禅をし、仏教を学びに来る。彼らは、客観的世界と対立する実体としての自我を無批判的に受け入れるから、苦しみ続ける。彼らは、その客観的世界を自身から切り離されたものとしてみなすことに固執する。禅は『真実の自己（自我ではない）』を知る道を開く。それは仏教の根本である。・・・自我の肯定と自我の否定、その両方の機能をする無我が存在する。そしてこの機能は世界のありようの根本である。・・・経典は自我の肯定と自我の否定の機能についての本質的な真理を指し示す。無我という禅の境地を望むなら、経典の勉強は必要不可欠な第一歩である。これが、臨済寺のサンガが経典の勉強会をする理由である。」

71 ページ 文章 右上

修行には2つの側面がある。・・・経験的な側面、修行によって参究するものと、教理的な側面で教えを学ぶものである。

71 ページ 写真 右下

1978年、家族の前に座る講習会メンバーとマウント・ボールディのスタッフ。左から、老師、佐々木春代夫人、タイテツ・ウノ博士、長尾雅人博士（訳注：京都大学名誉教授）、目幸黙僊博士（訳注：同朋大学教授）

72 ページ

1977年から1979年まで、マウント・ボールディ禅センターで最初3つのプログラムがあった。1980年から1984年、講習会はイサカ禅センターの後援をうけ、ニューヨーク州の北部にあるコーネル大学の近くで講習が行われた。（講習会に）大学の履修単位が認められるようになった。1985年から現在まで、講習会はジェメス・ボーディ・マンダラで行われている。

72 ページ 文章 右上



「虚空に釘打つことなかれ」これは臨濟禪師の言葉である。しかし、私が臨濟禪師に言いたいことは、私は虚空に釘を打ちたいということだ。死ぬ日まで、人間としての人格をたもつつもりである。だから、私は毎日、自身に釘打たねばならないのである。

#### 72 ページ 文章 右下

何年にもわたり見てきたのだが、私の修行者たちのほとんどが、非常に私の提唱を熱心に聴いており、ときにはあまりに熱心なので居眠りしているのである。彼らが坐禅しているとき、前に後ろに揺れていると、ナスの木が気持ちいい夏のそよ風に吹かれているのを思い出す。修行者たちが坐禅しながら気持ちよく眠っているとき、彼らは「このように来て、このように去る」という根気を良く表現しているとの思いにかられる。彼らの眠りが根気を遮らないから、私は決して彼らの眠りを遮らないようにした。

#### 72 ページ 写真 左下

玉城康四朗博士（訳注：東京大学名誉教授）

### 73 ページ

毎年、老師は世界中の著名な仏教学者の集まりに参加して、仏教の根本的な教義を研究した。このプログラムによって、仏教学が禅修行の環境に入っていくことになった。大撰心が仏教学のクラスに先立って、またそのあとに行われた。老師と大学の在學生と卒業生からなる学生たち、禅修行者と僧侶、様々な宗教の僧侶といった、人々の相互交流は継続し、これによって講習会は特別な機会となったのである。

日本の仏教学をリードする学者の中には、講習会で講義をする者もいた。金岡秀友（訳注：東洋大学教授）、長尾雅人（訳注：京都大学名誉教授）、西義雄（訳注：東洋大学教授）、西谷啓治（訳注：京都大学名誉教授）、玉城康四朗（訳注：東京大学名誉教授）、田村芳朗（訳注：東京大学教授）、その他の人々がやってきて、アメリカにブッダの法を伝えようとする老師の事業に参加した。

#### 73 ページ 文章

寂滅の世界は言語が全く必要のない世界であり、聖書を超越した世界であり、あらゆる経典を超越した世界であり、聖書と経典のみが指し示すことのできる世界である。

74 ページ 写真 注

プエルトリコ、1979年。

## 75 ページ

### 旅行

老師はいつも、真摯な修行者の求めに応じていた。アメリカにきた当初から、老師は指導と鍛錬を望む人々のために、あちこちへ旅行してまわった。(禅への) 関心と関わりが修行者に広がり、修行者の居場所が地理的に拡大すると、老師はより精力的に移動し始め、より強い鍛錬をする機会をもうけていった。何年もかけて、彼は合衆国、カナダ、オーストリア、ドイツ、スペイン、ノルウェイ、ベルギーそしてニュージーランドで大摂心をした。最近のヨーロッパ行きでは、5 週間の間に、1 週間の摂心を 4 カ国で 4 回行ったのである！ 摂心の日は毎日、すべての修行者に 4 回の参禅をさせ、正式な提唱もあった。25 年前にアメリカに来て以来、老師は 40 万回以上の参禅をさせたと思われる。

最初の頃は、摂心をして欲しいと修行者や禅センターに招かれたとき、黙想をするための適切な施設がなかった。他に場所を借りる必要があった。その場所が、アワスティング・リトリートでニューヨーク州の山あいであり、そこで老師は初めて東海岸の修行者たちに摂心することになったのである。

その施設は広々としていた。実際、そこでは禅以外の 2 つか 3 つの借り手がいて、同時期に作業をしていた。禅堂のとなりにはオペラのグループがいた。

## 75 ページ 文章 右上

諸君は言う、「生だけにかかわりたい、死にはかかわりたくない」と。(さらに) 実際の感じ方に反して、「生とともに流れなくてはならない」、そして言い出す、「生を完全に我が物としなくてはならない」と。こうした「馳求する心」はもともと仏教が戒めるものである。自我を固定化するという悪習におちいるとき、馳求する心は否応なしにわきおこるのである。

## 75 ページ 文章 右下

なぜ「馳求する心」を避けるように私たちは説くのだろうか？ それはなぜなら、事実として、あなたはそのように馳求することはできないからである。法の働きは、あなたを馳求するように創造していない。だからあなたはあるべき姿に完全に反したことをしているのである。馳求することは、自我を固定的なものとしてとらえるときに行われる。さらに、自我を固定する悪習は、法の働きの副産物でもある。いいかえると、自我を固定的なものとしてとらえることは、大きな間違いであるけれども、そのことについてあなたに責任があるわけではない。

## 76 ページ 写真 注

ビーチ・ヒル瞑想センター、1978 年

## 77 ページ

老師の小屋の近くの森では、怪奇ドラマを作っているグループがいて、しきりに大きな叫び声をあげていた。禅堂から参禅室までの距離は数百ヤードだった。待合室はその2つの間の中ごろの場所にあって、いくつかの椅子がおかれていた。

摂心に入って数日して、台風がきて豪雨となった。老師の小屋への道は6インチの洪水となり、参禅はサウナ部屋に移った。他のグループの人々は、禅のグループが何時間かサウナを使っていると告げられた。それなのに、何度もサウナの電源がきられず、老師は僧衣をきていたから、次から次へ修行者がはいつてくるうちに汗だくになった。時には、浴衣の人が参禅の間にまちがって入ってくることもあった。

サウナはとりこわされてアワスティングのスタッフのメンバーの寢室とした。屋外との行き来は、非常用階段しかなかった。管長のベルがなると、修行者は窓からよじのぼり、非常用階段をのぼって別の窓から老師の部屋にはいった。アワスティングの監督が、参禅の間この施設にやってきた新しいグループを指導していた。彼はまじめな人たちにむかって、窓からでるのを待つように説明した。「彼らはこの上ない経験をしようとしているのだ。」

77 ページ 写真 右上

クラクフ、ポーランド、1981 年

77 ページ 写真 右下

オレゴン、1972 年

## 78 ページ

年齢をかさねても、老師は教化のスケジュールを減らさなかった。修業期間の長い僧侶がマウント・ボールディとジェメス・スプリングに住したことが老師を後押しし、大摂心をする旅行を続けた。最近ではニューヨークとウィーンを訪れた。しかし、彼はほとんどの時間を2つの主要な修業センターで過ごした。夏と冬の修行期間はマウント・ボールディで、春と秋の修業期間はジェメス・ボーディ・マンダラで過ごした。

78 ページ 文章 右上

生存せねばならないと思う自我から、生存する必要はないと知っている自我がたちあらわれる。私たちは、これを生死を超越している自我のあらわれと呼ぶ。

78 ページ 写真 左上 注

バンクーバー、1976年

78 ページ 写真 右下 注

ノルウェイ、1985年

79 ページ 文章

ここまで叡智を成熟させたなら、私たちの愛情は近い者や魅力を感じる者だけでなく、石や草木にまで広がって及ぶのである。

81 ページ

## キリスト教徒との対話

老師は何年にもわたり、キリスト教の修道士と対話と修養を行った。1972年の始め、老師はマサチューセッツ州のスペンサーにある、聖ジョセフ大修道院に行き、修道士とやってきた修行者たちのために摂心をおこなった。マーク・デルレイ神父は語る。

佐々木老師は1972年2月にマサチューセッツ州スペンサーの聖ジョセフ大修道院にやってきたが、これはとてもうれしいことだった。禅の伝統の代表者（である老師）と私たち自身の修道院の伝統との間に、速やかに良い関係ができた。老師は禅堂の生活スタイルによく似たキリスト教の修道院をみることができると語った。「教えることなく、説法することなく、俗世間の要求にこたえることもない」この発言は、道場を運営しないし、教区も運営しないし、俗世間と頻繁に関わることになる、俗世間の催しも行わないという事を、端的に言っている。

私は今でもなお、修道院で彼が最初に話したことを思い出す。老師がテーブルの上に握り拳をポンとおいていて、握り拳を上げたら、握り拳のあったところにたまたまスズメバチがとまった。

## 81 ページ 文章

自身を仏教徒だとか、キリスト教徒だとか識別すると、宗教の真の教義に反することとなる。

宗教はこの世界に資すべき大きな目的がある。しかし人類が地上の全ての宗教を識別すると、このような大きな目的の達成を阻害することになるのである。これが病を形作る。特定の宗教に固執するならば、それは異常な態様の信仰である。

## 82 ページ

「うん！ 私の拳があったところにスズメバチがとまった！ 神は私を気にかけるのとおなじくらい、スズメバチのことを気にかけている。」  
老師が話していると、スズメバチは飛び去った。老師は静かに続けた。「うん！ スズメバチは飛んで行ったぞ！ 神はスズメバチに話して言ったに違いない、『わしはお前に禅僧にはあまり近づかないでほしいと思う』とね。」

修道僧たちは、禅仏教の生活をもっとよく学びたいと関心をよせた。私たちは禅の伝統の知見と実践の領域に連れて行ってくれる確かな師を見つけたと感じた。最初のミーティングで、私たちは老師にいったん戻って、摂心を行って禅の方法を示してもらえないか提案した。この後の11月に老師は戻ってきて、私たちとともに最初の摂心を行った。これが、1981年までに年1回か2回おこなった8日間の摂心の始まりだった。

私たちの修道院はキリスト教であるから、老師は私たちの宗教信条に適合するように、提唱と公案を調整してくれた。同時に、彼は私たちに禅仏教の歴史と伝統について完全に話してくれた。これは老師の僧院生活の有り方の中心に横たわる宗教的・形而上的真実を見る機会となった。十字架の場所に関する老師の提唱は、キリスト教的神秘の核心に対する、これまでとは異なる理解と感性を与えてくれた。

## 82 ページ 文章

あちこちに行って言う、「私は仏教徒だ」「私はキリスト教徒だ」「私はイスラム教徒だ」「私はこれやかれやの主義に従う」、このように自身を宗教に固定したものとして識別すると、全てを包み込む世界の灯火となる妨げになるのである。

## 83 ページ

老師はかつて、敬虔なキリスト教徒として育てられた、僧侶のジェンタイと一緒にカリフォルニアのカトリックの布教区を訪れた。ドアのところで、老師は頭をたれるのか尋ねた。ジェンタイは老師に、聖水に指をひたして、十字をきる方法を見せた。老師は喜んでやった。そして、彼はもっと教えてほしいと思い、ジェンタイの方を見た。2人は教会の長椅子の間を過ぎて歩き、ひざまづいて祈った。後に老師は言った。「君は私のところへきて、悟りをもとめ、長い時間坐禅をしている。しかし、もし君がキリスト教徒なら、十字をきることに完全に君自身を委ねなさい。そのとき、君は神と、ブッダとひとつになる。」

## 83 ページ 文章 右上

小学生は、天国は空の彼方にあると教えられる。しかし、それは幼い者への教えである。皆さん、天国は「上のほうに」存在するものではないと肝に銘じなさい。だから、「上のほうの」天国を求めてしまうときは必ず、省みなさい、「私の自我は今、未熟で愚かな自我に墮してしまっている。」と。

## 83 ページ 文章 右下

天国へ行きたいという幻想にとらわれるときは必ず、あなたは天国から引き離されていると、非常に注意深く考えるようにしなさい。あなたは天国があなた自身の存在の外部にあると思っているのだろうが、もちろん、それは違う。

## 83 ページ 写真 左下 注

坐禅する修道士

84 ページ 写真 左上 注

承周禪寺 恐らく、日本以外で得度された臨濟禪の僧侶によって建てられた最初の寺

84 ページ 写真 左下 注

レス・フェーミ、プリンストン禪センターの監督

84 ページ 写真 右下 注

ゲンロー・ヘルベルト・コウデラ、ウィーンのボーディダルマ禪堂の創建者、住職

## 85 ページ

### 臨濟寺センター一覧

ブルー・リッジ禪グループ

私書箱 18 右 1 アーリースヴィレ、ヴァージニア州、〒22936

設立者と管理者 ウィリアム・ステファنز

ボルダー禪センター

2510 北 47 番通り ボルダー コロラド州 〒80301

管理者 ジェント・リチャード・バルスキー

クリア・マウンテン禪センター



8 スクール通り チャンハム、ニューヨーク州 〒12037

設立者と管理者 ソーゲン・リック・ハート

ダラスフォート・ワース禅センター

3603 コール通り ダラス、テキサス州 〒75204

プエルトリコ禅センター

エミリアーノ・ポル通りアパート 186、ラ・カンブレ、リオ・ピエドラス 〒00926

設立者 オスカー・モレノ

住職 タンドー・ジェフ・バウアー

[85 ページ](#) [写真](#) [右上](#) [注](#)

[プエルトリコ禅センターの住職、タンドー・ジェフ・バウアー](#)

[85 ページ](#) [写真](#) [右下](#) [注](#)

[クリア・マウンテン禅センター](#)

**86 ページ**

イサカ禅センター

312 オーバーン通り イサカ、ニューヨーク州 〒14850

設立者と管理者 ヨシン・デイヴィッド・ラディン

承周禪センター

2305 ハリマン道路 レドンドービーチ、カリフォルニア州 〒90278

設立者と管理者 コードー・ロン・オルセン

ロング・アイランド禪センター

6 ブルースター区 サトーキット、ニューヨーク州 〒11733

設立者と管理者 エドガー・カン

マイアミ禪センター

7010 南西 72 番通り マイアミ、フロリダ州 〒33143

設立者と管理者 アントニオ・バルケット

ノースカロライナ禪センター

私書箱 114 右 5 ピッツボロ、ノースカロライナ州 〒27312

設立者と管理者 ジェンタイ・サンディ・スチュアート

プリンストン禪センター

317 マウント・ルーカス道 プリンストン、ニュージャージー州 〒08540

設立者と管理者 レス・フェーミ

86 ページ 写真 右上 注

アルバムの編集者／イサカ禪センターで老師とともに 1987 年と 1977 年

86 ページ 写真 右下 注

プエルトリコの幹部と老師。左からタンドー・ジェフ・バウアー、マリル・メイバース、キャルロス・パチェーコ、ラウル・ダヴィラ、オスカー・モレノ

87 ページ

## アメリカ国外の施設

ボーディダルマ禅堂

フライシュマルクト 16 1010 ウイーン、オーストリア

設立者と住職 ゲンロー・ヘルベルト・コウデラ

ヴァスト・マウンテン禅グループ

郵便局 私書箱 1241 リローエト、BC V0K 1V0、カナダ

ヴィクトリア禅センター

203 ゴワード道 ヴィクトリア、BC V8X 3X3

設立者と管理者 リック・ハンター

バンクーバー禅センター

899 イー・ペンダー通り バンクーバー、BC V6A 3K4、カナダ

管理者 エシン・ジョン・ゴッドフレイ

禅研究所

1 オスロ [Vehlsig](#) 3 ノルウェー

ニュージーランド禅の会

396 ウェスト・コースト道路 グレン エデン オークランド7、ニュージーランド

設立者 テキ・オ・マイケル・ラッドフォード

87 ページ [写真](#) [右上](#) [注](#)

[バンクーバー禅センター](#)

87 ページ [写真](#) [右下](#) [注](#)

[ヴィクトリア禅センター](#)

88 ページ [写真](#) [左上](#) [注](#)

[イサカ禅センターが使うために買った土地](#)

88 ページ [文章](#)

修行者たちは何世紀にもわたって、ここにただひとつ起こっている精気の働きがあると教えられてきた。もしそれに馴れ親しんで高めていけないなら、私たちの修行はほとんど、何の益もないのである。

88 ページ [写真](#) [右上](#) [注](#)

[ブルー・リッジ禅グループ、フラトップ・マウンテン禅堂](#)

88 ページ 写真 右下 注

ブルー・リッジ禅グループ、シャルロットヴィレ禅堂

89 ページ

## 僧院の地

1985年に、ジェメス・ボーディ・マンダラのすぐ南にある13エーカーの土地が臨済寺の僧院のために購入された。僧院は、得度をうけた修行者が、集中的で強い修行を行う場所となり、印可証明のために長期間の修行の取り組みが必要となる点で、これまでの禅センターとは異なるものだった。僧院は臨済寺の様々な塔頭、禅センターそしてグループの教導者を輩出したのである。

僧院建設の支援が申し出てきたが、老師の歳のせいではないのだけれども、計画の詳細はまだこれからである。

89 ページ 文章

我々の修行というのはちょうど、魚が卵へ泳いで帰るようなもの、魚が滝をさかのぼって川にいたるようなものである。我々はそういう努力を行っている。

90 ページ

いかような言葉をもってしても、老師の修行者の（老師への）感謝の意を伝えることはできない。

参禅で親しく彼のむかひにすわり、時をすごし、このような方の存在と慈悲にふれるということは、この上ない天の贈り物である。

確かに、禪の種は植えられた。

合掌・・・・・・。

\*\*\*\*\*

⇒訳出にあたっての備忘

以下は老師の提唱の抜粋において使用されている文言で、以下の通り訳出したことを記録する。

annihilate self ・・・・「自我を滅却する」とした。(原義は「自我を廃止する」)

dissolution ・・・・「寂滅」とした。(原義は「死滅」)

tranquility ・・・・「涅槃」とした。(原義は「静謐」)

surrender ・・・・「委ね」とした。自己を対象、世界に託する意味か。(原義は「降伏して差し出す」)

state of holy ・・・・「浄土」とした。(原義は「聖なる国」)

compassion ・・・・「慈悲」とした。(原義は「あわれみ、同情」)